

資料5

# 熊本大学と連携した当行の 教育プログラムについて

株式会社 肥後銀行

1. 当行の概要
2. 熊本大学との取組み事例  
～熊大・肥銀ビジネスアカデミー～
3. 大学知見活用の広がりについて

# 1-(1). 肥後銀行について

資本金	181億円
店舗網	122カ店(熊本県内111カ店、県外11カ店) ※このほか上海駐在員事務所1
従業員数	2,249名
所在地	熊本市中央区紺屋町1-13-5
総資産	4兆4,791億円
総預金	3兆8,323億円
総貸出金	2兆5,734億円
沿革	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1925年 肥後協同銀行創立(熊本、飽田、植木の3行合併)</li> <li>■ 1985年 東京・大阪両証券取引所第一部上場</li> </ul>

平成26年3月31日現在

※ 2014年11月、鹿児島銀行との経営統合について基本合意。  
2015年3月、最終契約後、同年10月、持株会社設立予定。

## 企業理念

1. お客様第一主義に徹し、最適の金融サービスを提供します
2. 企業倫理を遵守し、豊かな地域社会の実現に積極的に貢献します
3. 創造性に富み、自由闊達で人間尊重の企業文化を確立します



設立時の肥後銀行本店

1925年に合併した3行のうちの1行旧熊本銀行の本店を旧肥後協同銀行の本店とした



新本店

2015年5月7日、新本店完成・移転予定。7月には創立90周年を迎える。

新本店ビルの基本テーマ  
「自然との共生、環境との調和」

# 1-(2).熊本大学との教育プロジェクトの背景

## 当行の経営戦略

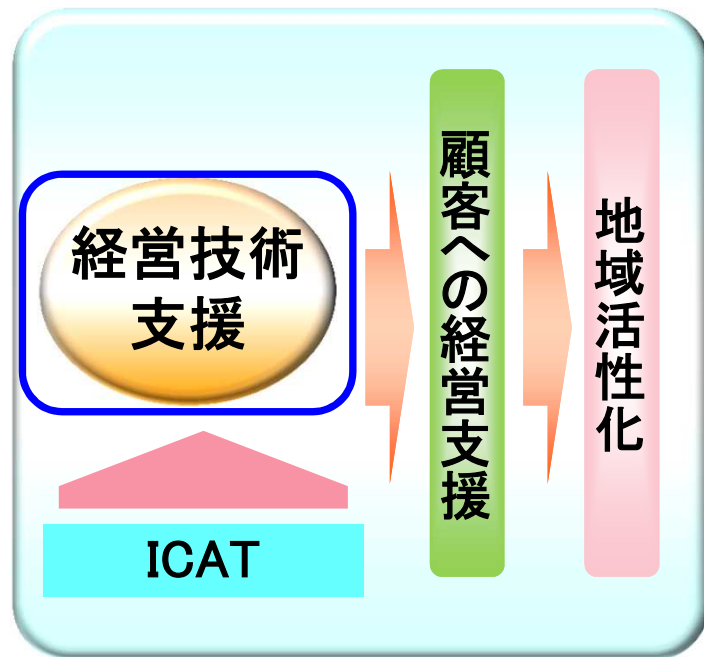
お客様へのコンサルティング、課題解決を行う**経営技術支援ビジネスモデル**を展開。経営技術支援を実行するために必要な知識・スキルを当行では**ICAT**と定義。

人口減少に伴い、地域経済縮小が予想される中、今後のビジネスモデルは金利競争を中心とした同質競争から付加価値を提供する異質競争の時代へ転換。ICATをベースとし、地方創生に繋がる**知識集約型ビジネスモデル**を目指している。

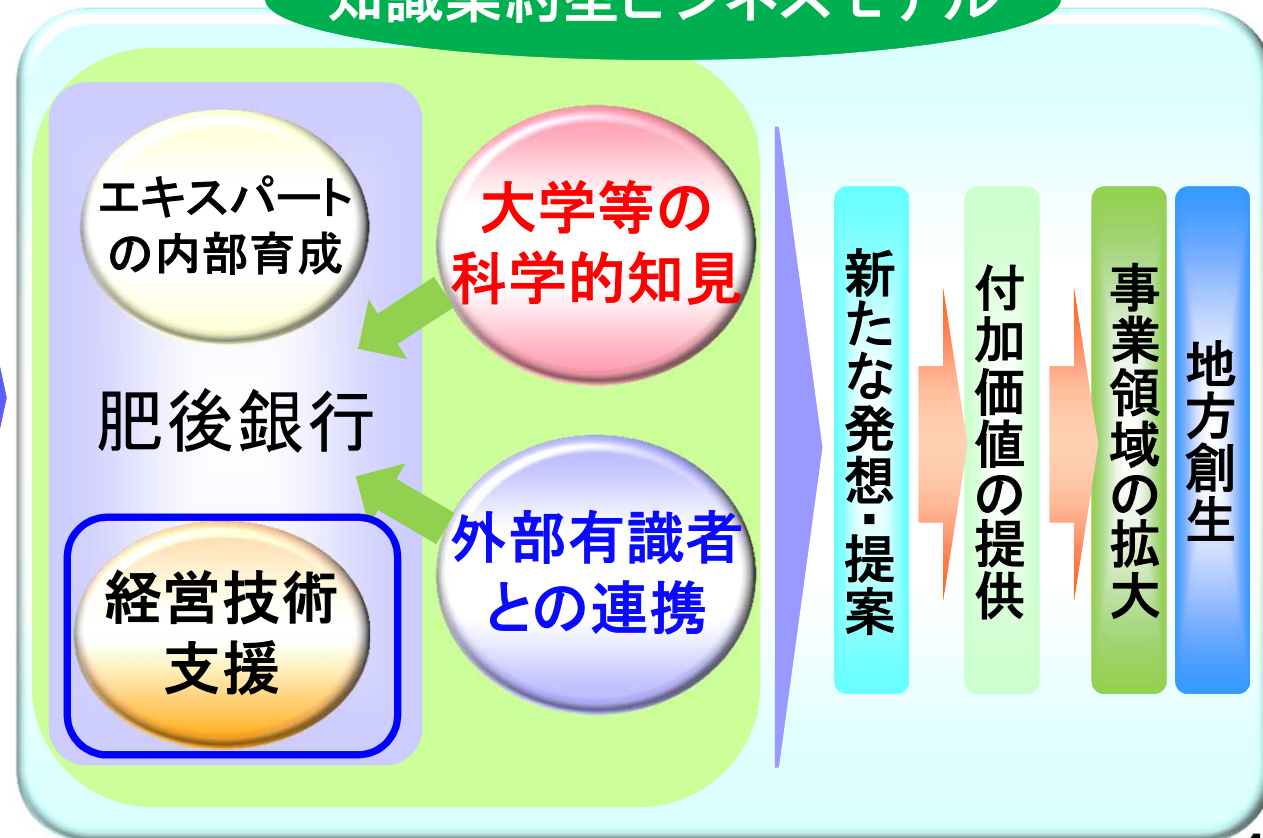
現在

今後

### 経営技術支援ビジネスモデル



### 知識集約型ビジネスモデル



# 1-(3). ICATについて

■ **経営技術支援**を行う為に  $ICAT = IT \times CT \times AT$  を活用。

## ICATとは、デザイン力

**IT**  
Information Technology

システム設計

コンピュータシステム  
ネットワークシステム

**CT**  
Communication Technology

コミュニケーション設計

情報共有・機会  
動機付け・チームワーク

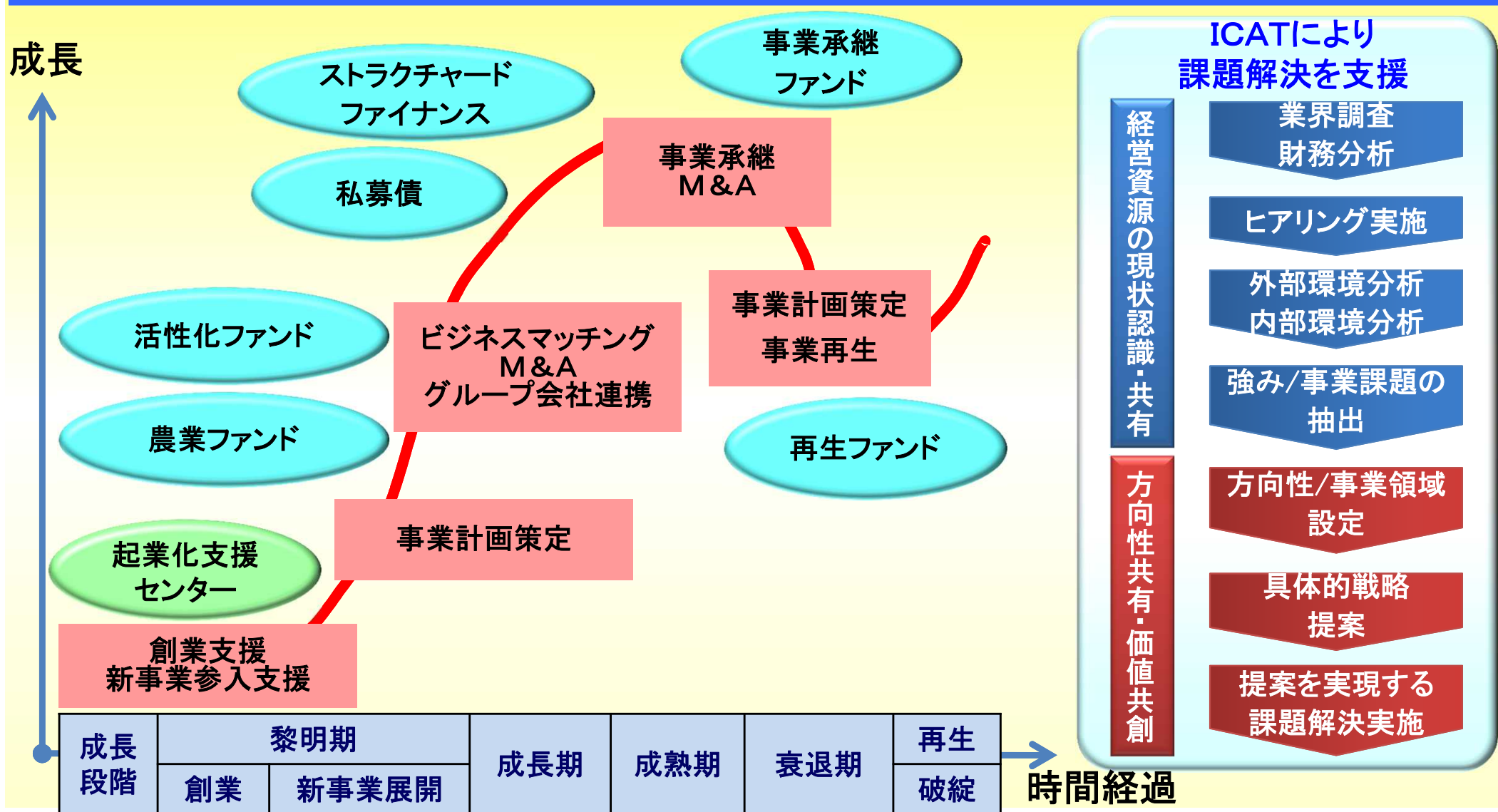
**AT**  
Account・Analysis & Accountability  
Technology

論理設計

会計(数値管理)  
分析・説明力

# 1-(4). 経営技術支援による課題解決

- 主要取引先全先を成長段階で分類
- ICATを駆使して各ステージに応じた課題解決策を提案



## 2. 熊本大学との取組み事例

～熊大・肥銀ビジネスアカデミー～

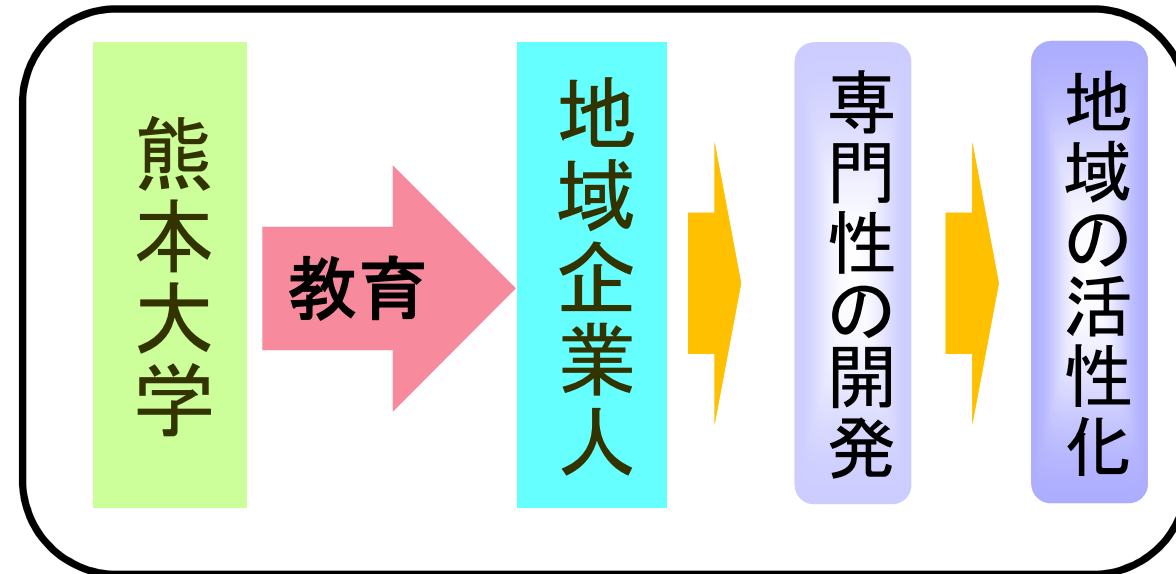


## 2-(1).本プログラム提案について

### 当行から熊本大学への提案

大学の知見を地域企業人へ教育することで、地域活性化に貢献。

当行で実験していただき、  
熊本の地域企業への展開可能性を探る。(試金石的位置付け)



### 熊本大学への要望事項

- 1.情報システム教育
- 2.市場・ファイナンス教育
- 3.確率・統計、金融工学教育
- 4.グローバルコミュニケーション教育

求める知識・スキル ⇒ ICAT

- ①定性データの定量転換技術
- ②大容量データの分析スキル
- ③英語で各種最新情報を収集



## 2-(2). プログラム策定・実施までの経緯について

時期	協議	内容
H25.5月	キックオフ・ミーティング	行内プロジェクトメンバーによる第一回会合 甲斐頭取より主旨説明
H25.5月	第一回合同協議会	熊本大学8名、当行6名による第一回合同協議会 熊大 両角副学長、当行 上野常務他 具体的な講義イメージの共有
H25.7月	第二回合同協議会	英語、データマイニング、システム、法律の各カリキュラムについて検討開始
H25.7～8月	個別プログラム 打ち合わせ	法学部長、工学部名誉教授他各学部の代表と協議し、担当教授を決定。その後、担当教授と個別にプログラム設計。
H25.8月	予算・費用調整	トライアル事業としての価格設定。
H25.9月	募集開始・開講準備	H25年10月開講に向け、会場準備、機器類・書籍等購入 行内論文公募により、人選。
H25.10月	開講	実務者編12名スタート。 H26/4月、管理職編8名スタート。

# 2-(3). 教育プログラム概要 (H25年10月開講)

## 受講者

実務担当者  
40歳未満行員 12名(公募)

管理職  
40歳以上 8名(指名)

前期6ヶ月・後期6ヶ月  
⇒ 1年間のカリキュラム

後期  
(26年度上期)

①数理  
ファイナンス  
指名4名

②システム  
プロジェクト  
マネジメント  
全員

全員受講

③英語  
共通

④データマイニング  
(統計を高度化)

前期  
(25年度下期)

英語・システム・法律概論・基礎統計(+数理ファイナンス)

Eラーニング  
熊本の紹介(英語)

フローチャート  
プログラミング

法律体系等

確率・統計(教養課程)

熊本大学との協働領域

## 分野別コース

アドバンスコース受講者の中から指名(専門分野)4名



## アドバンスコース

6ヶ月

英語力、データ解析力(統計)等の強化

## 基礎コース

6ヶ月

# 2-(4). コース実施スケジュール

隔週水曜日 15時～18時 開催

1時限目 15:00～16:30

2時限目 16:40～18:10

場所: 当行徒然会館

## 基礎コース 全13日(25コマ)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
英語 全6回	9日	6日	4日	8日	5日	5日
統計 全6回	9日	6日	4日	8日	5日	5日
プロジェクト マネジメント		13日				
数理ファイ ナンス全3回		13日	18日			12日
システム 全5回	23日	20日	18日	22日	19日	
法務 全4回	23日	20日		22日	19日	

## アドバンスコース 全14日(24コマ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
英語 全6回	15日	13日	10日	10日	—	9日
統計・デー タマイニング 全14回	15日	13日	10日	10日	12日	—
	22日	27日	18日	22日	19日	—
プロジェクト マネジメント 全4回	—	27日	24日	15日	—	—

## 分野別コース 全3日(4コマ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
数理ファイ ナンス全4回	22日	—	18日	30日	—	—

コース設計者、企画者(市場金融部長、人材育成グループ長)がすべての講義に参加し、ファシリテーションを担当。

## 2-(5). 各カリキュラムの実施内容

	実施内容
①統計 大学院自然科学研究科 高田佳和教授	①確率・統計論について、講義及びパソコン実習。正規分布、箱ひげ図、分散、相関、回帰分析等 ②統計検定3級を全員受験 14名合格
②数理ファイナンス 大学院自然科学研究科 桑江一洋教授	①NPV(ネットプレゼントバリュー)、デリバティブ、先物(スワップ、オプション等) ⇒ 固定金利の仕組み等実務理解
③データマイニング 大学院自然科学研究科 櫻井保志教授	①データ分析の実例(ビッグデータの分析等米国の最新事例)紹介
④システム 大学院自然科学研究科 宇佐川毅教授	①フローチャート作成 ②マクロ基礎 事例研究:自動販売機の釣銭
⑤プロジェクト・マネジメント 同上	①WBS、クリティカルパス分析、ガントチャート、マイルストーン、要員負荷ヒストグラム 仮想プロジェクトについて、グループワーク実習。
⑥法務 法学部 岡田行雄教授	①法務基礎(種類・歴史・体系等)②民法(基本原則、行為能力、契約、相続等)③民法(過失責任、物権、遺言等)、民事訴訟法
⑦英語 マイケル・ラップ講師 外国人留学生3名	①グループセッション。外国人留学生3名と英語でコミュニケーション。 ②「熊本・肥後銀行の紹介」「ビジネスプラン」を英語でプレゼン発表。 ③eラーニング受講、TOEIC全員受験 ※最高点955点

## 総括

当初の目的「定量分析かつグローバルな人材の育成」については、一定のレベルまで達した。

### 総括根拠

統計	基礎的な解析技術の習得、ビッグデータの最新情報の入手
システム	プログラミング、プロジェクトマネジメントのベース修得
英語	外国人留学生と共同で、ビジネスプラン・熊本紹介ビデオを作成

### 課題・問題点

	課題	対応
①	トライ＆エラーでスタートしたため、目標設定が事後設定となった点。銀行実務での活用。	目標→統計3級
②	ビジョンの説明者かつ講義時間中の解釈促進者(ファシリテーター)が必要。	今後は1期生をファシリテーターとして活用
③	教授のスケジュール調整が難航。実務者コース・管理職コースの2本立て運営に難あり。大学側に負担大。	コース統合検討
④	個別科目の授業内容について、講師との事前調整不足。また、経済学部、経営学部がなく、科目設定に制限あり。	他大学からの講師派遣の検討

### 地域展開における課題

- ① 当行向けプログラムの汎用性(地域中小企業等向け)
- ② 民間の教育プログラムとの差異
- ③ 地域中小企業における教育ニーズの把握

### 当行における検討事項

- ① 個別科目に対する当行ニーズを担当教授と共有し、プログラム全体の改良継続
- ② 熊本大学の高度な知見の活用拡大(医療、工学等)

### 3. 大学知見活用の広がりについて

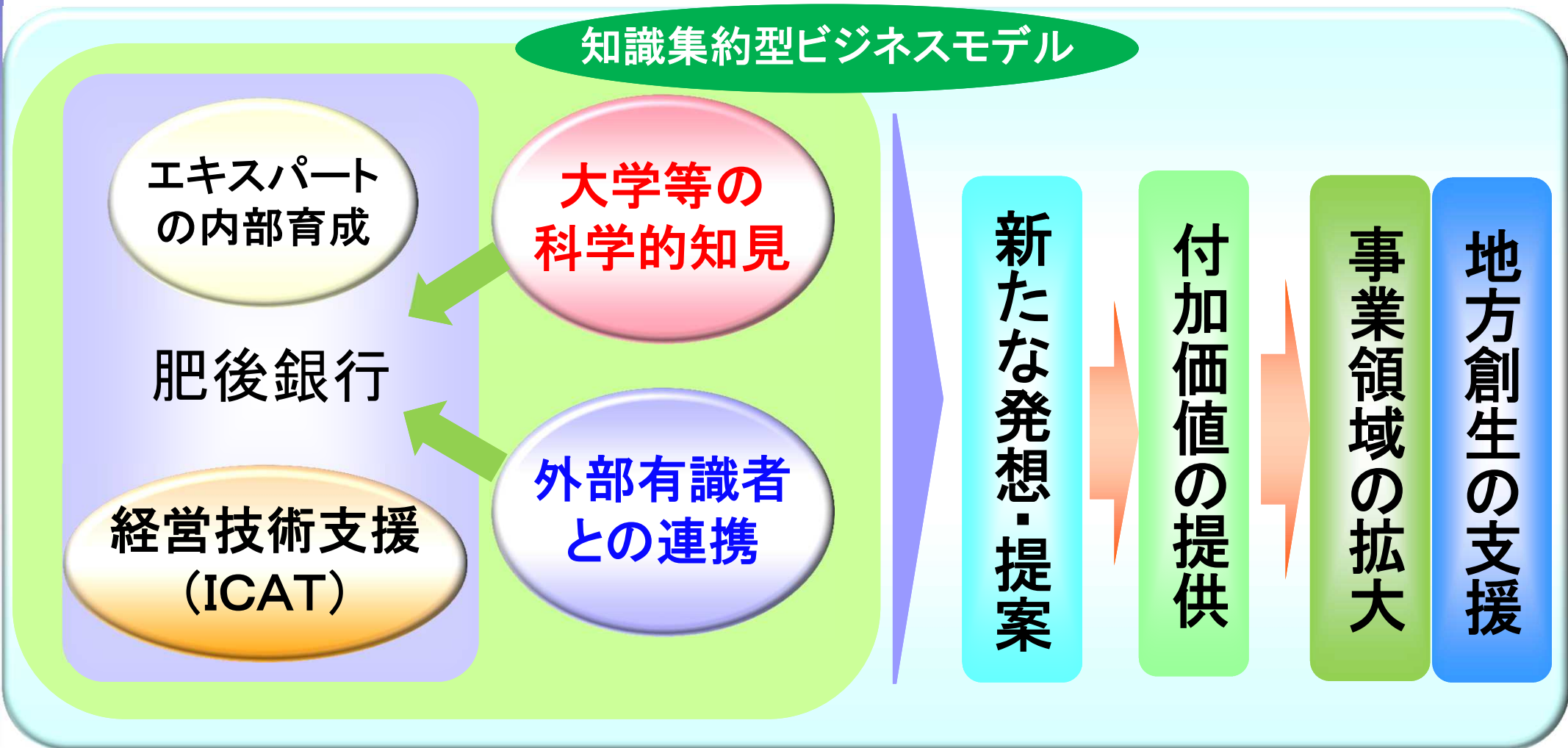


# 3-(1). 知識集約型ビジネスモデルを目指して

- 人口減少・少子高齢⇒ビジネスモデルは、同質競争から異質競争へ
- 事業分野を科学的に分析し、新たな発想・提案から地方創生へ繋げる

産官学連携、地域連携による知識集約型ビジネスモデルへ

## 知識集約型ビジネスモデル

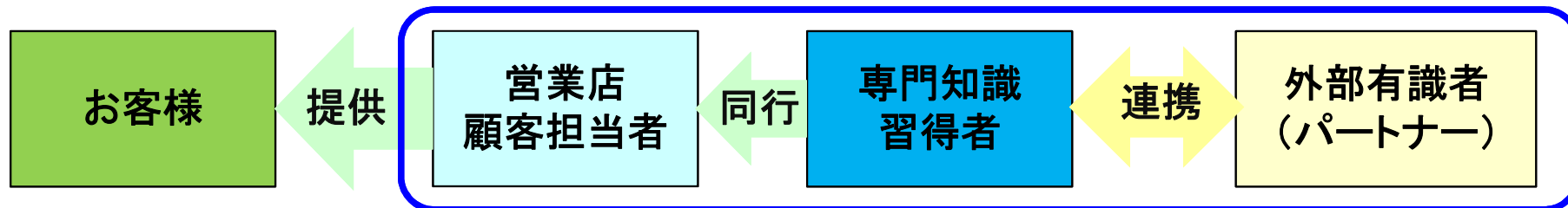


# 3-(2). 事業分野と専門知識について

商品提供からソリューション提供への転換 ⇒ 事業性評価、目利き力の向上

事業の周辺を科学するために必要な知識(ナレッジ)

分野	項目			
農業	畜産、酪農	施設園芸	水産養殖	果樹...
観光	旅行代理店	交通インフラ	旅館等宿泊業	土産品製造...
医療	内科・外科	脳神経	予防医療	遺伝子工学...
エネルギー	太陽光	バイオマス	小水力	風力、地熱...
経営戦略	競争戦略	マーケティング	組織行動論	管理会計...
人的資源	人的資源戦略	心理学	労働経済	ストレスマネジメント
投資評価	ファイナンス	デリバティブ	証券投資	金融工学論
IT	IOT	ウェアラブル端末	人工知能(ロボット)	3Dプリンター...
グローバル	語学	ダイバーシティ	文化	宗教...
PFI	PPP	地方財政論	都市工学	プロジェクトファイナンス...
P B	遺言信託	ウェルスマネジメント	エステートプランニング	投資政策書...



## 教育分野

### インストラクショナル・デザイン

社会文化科学研究科  
教授システム学専攻  
鈴木克明教授



## 肥後銀行

### ■ 教育部門・研修への導入

熊本大学の学術・理論を民間企業  
の現場で実用・実践

## 医療分野

### 脳科学(認知症、うつ等)

生命科学研究部  
神経精神医学分野  
池田学教授



### ■ 高齢者対応、従業員ヘルスケア

脳科学における最新の研究成果  
を学び、医療及び周辺分野の付  
加価値提供力を強化。

教育分野・医療分野での知見の活用

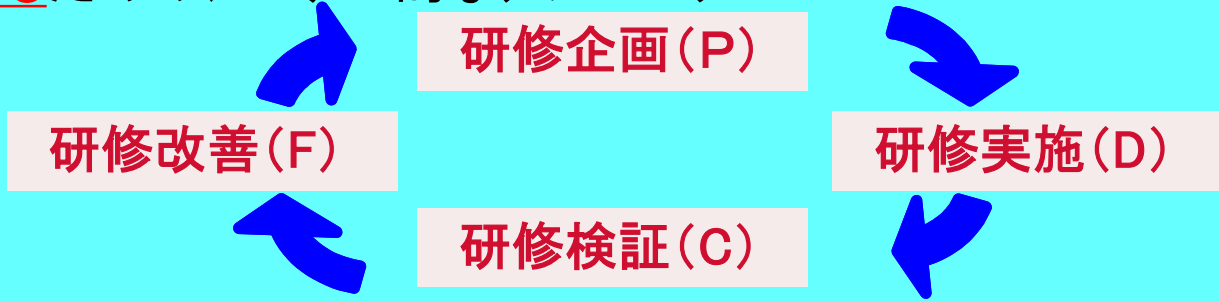
# 3-(4). インストラクショナル・デザイン

## 【当行での取組み】

平成27年2月24日(火)、鈴木教授による当行教育担当者向けインストラクショナル・デザイン講義を実施。当行に対し、教育態勢、研修体系等を見直す知見をいただいた。

「インストラクショナル・デザイン」とは、教育活動の効果・効率・魅力を高めるための体系的なアプローチ

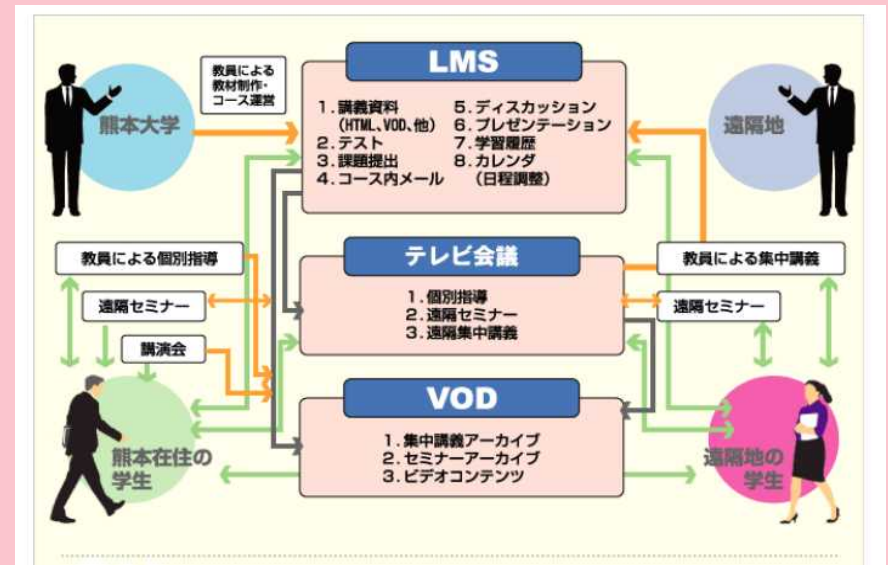
研修の企画・実施・検証・改善のそれぞれについて、科学的な知見を導入。



## 熊本大学：教授システム学専攻

- 通学不要のため、全国各地に受講生が存在。
- 最先端のeラーニング技術を活用した遠隔学習により、自宅や職場で働きながら学位取得が可能。
- 新たな知の創出に向けた学び合い・教え合いをネットワークで支援。

社会人学び直しの参考事例



終